

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスあとりえ		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 1日		～ 令和6年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和6年 11月 1日		～ 令和6年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	すぐに連絡が取れる様、公式LINEを使用している。また、活動の様子を写真に撮って保護者に送ったり、SNSを活用して発信している。	SNSの投稿頻度を増やし、写真や動画にて子ども達の様子や関わりをいつでも見られるように努めている。
2	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	子ども会議を行い、毎月のイベント表に利用者・職員の意見を反映している。	・固定曜日での利用もある為、様々な曜日で子ども会議を行うことで、より多くの利用者の意見を反映できるよう努めている。 ・決まり事なども利用者と話し合い決めるように努めている。
3	生活空間が利用者にわかりやすく構造化された環境になっている。また、清潔で心地よく過ごせる環境になっている	荷物の棚と玩具の棚は場所を離し、分かりやすいようにしている。また、片付けがしやすいよう片付けの場所を決めるなどして工夫している。	片付け場所に写真や図を貼ることで片付け場所がわかりやすいようになった

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門的な支援	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等を専門としている職員がいない。	人材確保に向けた動きや、研修への参加が必要。
2	地域や他の子どもとの関わり	・人見知りや、パニックになる児童もいて、なかなか機会を設けることができなかった。 ・効率的な動きができておらず、新しい取り組みに手が回っていなかった。	・地域で行われるイベントへの参加や、レクリエーション協会との連携を図り、交流する機会をつくっていく。 (児童の様子をみながら無理のないようにする) ・他の子ども(少数)との関わりをつくっていく。 (まずは姉妹施設から始める)
3	保護者との面談や子育てに関する助言等の支援	個別支援計画書の作成時以外で機会を設けることができなかった。	・面談希望に応じて対応できるように調整する。 (定期的な開催も検討中) ・学期ごとや環境の変化などある場合は、特に密に連携を図っていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスあとろえ		公表日		令和 7 年 2 月 18 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		2部屋をいつでも行き来できるようにしている	人数が増えてくるとスペースが狭くなると思う。限られたスペースを上手く使っていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	常に4名以上の配置をしている	送迎時間が重なり時間がギリギリになることがある。予め分かっている場合は、保護者に伝え、少し学校で待機してもらっている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		ドア等を外して広く安全な空間を作っている		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		全員で片付けや掃除を行い、清潔を保っている		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	2	職員室でクールダウンしたり、話し合いを行っている	もう一部屋あるとよい。現在は職員室を使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1	職員全員が意見を出し、共有できている		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		職員会議にて把握できている	定期的に話し合いがあるとよい	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		随時、気になったことの共有をしている	機会を設けているが定期的に話し合いがあるとよい	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		外部評価はできていない為、検討する必要がある	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5	2		外部での研修に参加できていない	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		SNSやリタリコにて公表されている		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		保護者との連携やコミュニケーションが充実している		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		全員の意見をもとに作成されている		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1		共有されていない事もある為、全員把握できるとよい	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2		ツールを用いることができていない	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	こども達の意見を取り入れつつ、職員間でも話し合いを行っている		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		こども会議にて、こども達の意見を取り入れている		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2		時間の確保が難しい場合もある為、きちんと確認し合うことが大切だと思う
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	4		時間の確保が難しい場合もある為、きちんと確認し合うことが大切だと思う
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	1		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	1		
関係機関や保護者との連携	26	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2		私自身把握できていない
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		学校と共有すべきことは共有できている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	5		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			私自身把握できていない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		5		私自身把握できていない
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		7		交流できていない
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	4		私自身把握できていない
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時やLINEにて伝えあっている（活動の様子の写真を送っている）	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	6	情報提供は行っている	研修の機会はできていない
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		見学、契約時に行っている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		説明できている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	1	都度行っている	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		7		交流できていない為、機会があるとよい
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		Instagramを活用している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	診断書の提出をお願いしている（現在アレルギーを持っている利用者はいない）	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	2		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2	5		研修の機会が必要だとおもう
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	1	5		私自身把握できていない。	